

# 大人のための 歯科講座

「歯科治療の新潮流」

＝⑱＝

2007年に東京・八重洲で起こったインプラント手術による死亡事故についての裁判が行われ、また話題になっていきます。私の患者さんでもこの話を話題にされる方が数名おられ、関心が高いようなので「インプラントのトラブル」を今回のテーマにさせていただきます。

インプラントに限らず、歯科の修復治療後の「神経麻痺」「上顎

たが、歯科の場合、治療したところは完全治癒しているわけではないので治療していかないところに比べればトラブルが起こる確率は当然高くなります。治療経験の多い患者さんはそのことを経験的にもよく理解されていると思います。

しかし許されないトラブルもあります。インプラントでは、術後には骨を削るの

今回話題の出血による窒息です。下顎骨の内側、舌の下方には唾液腺や筋とともに血管も走っています。インプラントを埋入するためには骨を削るので

実際に経験し、その後修復したり、別の治療法を採用したりして患者さんもその後、快適にインプラントをお使いになっています。

しかし別の疾患や死亡にいたるようなトラブルは絶対に起こってはならないもので、再治療も大変難しくなります。お互い精

ルーセントデンタル  
クリニック院長  
後藤 英夫

＜略歴＞ 1998年、東京医科歯科大学歯学部卒業。名古屋大学医学部遺伝子再生医療センター医員、国立長寿医療センター歯科口腔外科勤務などを経て、2008年からルーセントデンタルクリニック副院長。2011年から院長。



## インプラントのトラブル

### 慎重なことは大切だが 神経質にならないで

インプラントのトラブルが皆無かというとは全くそんなことはありません。一言でトラブルといっても修復可能なものや、ある程度、想定内のものから確率は極めて低いながらも生命にかかわるものまで様々あります。被せものがとれたり、歯がかけたり、神経をとったところに違和感が残ったりというのもトラブルといえればトラブルです。

このような場合は患者さんと担当医の間で信頼関係ができていて、そこまで患者さんに肉体的な負担を強い再治療でなければ問題になることはありません。以前お話し

「洞炎」などがそれに当たります。そもそも固式式の歯を求めてインプラントを希望したのに、それによって別の疾患になってしまえばそれは患者さんにとって納得しがたいものではないでしょうか。

そしてインプラントに関するトラブルで生じかねない唯一のトラブルといえるのが、

が、その際、下顎骨の内側の壁を突き破るとドリルに血管を巻き込み出血をきたします。そして出血により舌が持ち上がり、舌の後方に位置する気道を閉塞してしまおうと、場合によっては窒息に至ります。これが2007年のインプラント事故で起こったことです。

インプラントの上部構造がこわれたり、インプラントが骨に固定されず脱落するといったトラブルもお互い気分のいいものではありませんが、それも修復可能です。私も

これは、診断や手術法、解剖の知識、症例の選択、術者の考え方などが重要になってきます。これについては次回より述べさせていただきます。

現段階でお伝えしておきたいことはあまり神経質になりすぎたくないことです。インプラントにより大きな喜びを得られた方のほうが圧倒的に多いこと、このような事故は極めてまれなことだけはご理解ください。



下顎骨の内側、顎舌骨筋線周赤と分有ゲが必須

線には動脈が走っている。う十要ト態は必須

線の方にドリルが向かると大出血の危険をCTもレントゲンだけでは、骨の断面形を把握できないためCT

www.lucient-d.com

08・8555、UR

3階、電話052・9

古屋ルーセントタワー

西区牛島町6の1・名古屋ルーセントデンタルクリニック